

A区分・C区分共通

No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

| | |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

| | | | |
|----|----|----|----|
| 分野 | 演劇 | 種目 | 演劇 |
|----|----|----|----|

応募区分(応募する区分を選択してください。)

| | |
|------|-----|
| 応募区分 | A区分 |
|------|-----|

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

| | | | |
|---------|---|--------|-----|
| 複数応募の有無 | 有 | 応募総企画数 | 3企画 |
|---------|---|--------|-----|

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

| | |
|--------------------|--------------------------|
| 複数の企画が採択された場合の実施体制 | 公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能 |
|--------------------|--------------------------|

文化芸術団体の概要

| | | | |
|-------------------------|--|--|----------------------------------|
| ふりがな 制作団体名 | きょういくえんげきけんきゅうきょうかい 公益社団法人 教育演劇研究協会 | 団体ウェブサイトURL | https://www.gekidan-tanpopo.com/ |
| 代表者職・氏名 | 代表理事 森下 文雄 | | |
| 制作団体所在地 | 〒 435-0015 静岡県浜松市中央区子安町323-3 | 最寄り駅(バス停) | 浜松駅(子安バス停) |
| 電話番号 | 053-461-5395 | | |
| ふりがな 公演団体名 | げきだんたんぼぼ 劇団たんぼぼ | 団体ウェブサイトURL | https://www.gekidan-tanpopo.com/ |
| 代表者職・氏名 | 代表 村岡 由美子 | | |
| 公演団体所在地 | 〒 435-0015 静岡県浜松市中央区子安町323-3 | 最寄り駅(バス停) | 浜松駅(子安バス停) |
| 制作団体 設立年月 | 1955年2月 | | |
| 制作団体組織 | 役職員 | 団体構成員及び加入条件等 | |
| | 代表理事 森下文雄 副代表理事 村岡由美子 他 理事12名、監事2名 | (1) 団体構成員 個人正会員36人(うち劇団員26人) 個人賛助会員69人(うち法人会員5法人) (2) 加入の条件 法人の目的に賛同し、理事会の承認を得た者 | |
| 事務体制 事務(制作)専任担当の有無 | 事務(制作)専任の担当者 を置く | 本事業担当者名 | 松下哲子 |
| 経理処理等の 監査担当の有無 | 有 | 経理担当者 | 森田美代子(経理) 鈴木登(監査) |
| 本応募にかかる連絡先 (メールアドレス) | tanpopo@gekidan-tanpopo.com | | |

| | | | |
|---------------------------------|--|--|--|
| <p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p> | <p>1945年 長野県篠ノ井町(現長野市)で小百合葉子主宰の児童劇団たんぽぽを発足。 1950年 長野県松本市へ拠点を移し、公演は、東京、静岡、岐阜、神奈川へと広がる。 1953年 活動の拠点を静岡県浜松市へと移す。 1955年 文部省(当時)から児童劇団として初めて公益法人格が許可され社団法人教育演劇研究協会を設立。 1963年 復帰前の沖縄公演に出発。沖縄全域120日209公演実施。 1966年 北海道に事務所を新設。 1972年 長野県に事務所を新設。 1986年 沖縄県に事務所を新設。 2012年 内閣府より公益社団法人の認定を受け、公益社団法人教育演劇研究協会に移行</p> <p>(主な受賞歴) 1963年 静岡県初の文化奨励賞、日本児童演劇協会奨励賞を受賞。 1978年 文化庁創設十周年表彰を受ける。 2023年 浜松市教育文化奨励賞 受賞</p> | | |
| <p>学校等における 公演実績</p> | <p>劇団創立以来、公演回数は、延べ44,000回以上を実施。その公演のうちほとんど(約8割)が、学校体育館での公演である。 その公演活動範囲は、北海道から沖縄に及び、学校規模も児童数1,000人以上の学校から10人に満たない小規模学校まで、様々行っている。 毎年8月～9月にかけて北海道で、12月～1月にかけて沖縄県で公演を行っている。 年間公演回数は約350公演。</p> <p>「いのちのまつり」は、2017年より、500公演以上を実施。各学校で好評なロングラン上演作品である。文化芸術による子供育成総合事業での公演実績もあり。 「厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財」の推薦作品。</p> | | |
| <p>特別支援学校等における公演実績</p> | <p>平成21年 静岡県文化振興プラン事業「長い長い郵便屋さんの話」 藤枝特別支援学校、静岡南部特別支援学校等8会場11公演(21校) 延べ2,553人 平成22年 諫早特別支援学校「100万回生きたねこ」 島原特別支援学校「100万回生きたねこ」 沼津特別支援学校「100万回生きたねこ」 袋井特別支援学校「ふしぎの森のヤーヤー」 平成23年 岡崎養護学校 「ふしぎの森のヤーヤー」 平成24年 袋井市特別支援学校「ズッコケ妖怪大図鑑」 平成30年 北海道釧路鶴野支援学校「グリックの冒険」 令和2年 岡崎養護学校「おはなしレストラン」 令和3年 協和特別支援学校・旭川養護学校・白糠養護学校「おはなしレストラン」 令和4年 長崎県内特別支援学校 4校 「100万回生きたねこ」 令和5年 佐世保特別支援学校「100万回生きたねこ」 小国支援学校 「おはなしレストラン」 令和6年 長崎県内特別支援学校 2校 「あやうしズッコケ探険隊」</p> | | |
| <p>参考資料の有無</p> | <p>申請する演目のWEB公開資料</p> | <p>有</p> | |
| | <p>※公開資料有の場合URL</p> | <p>https://www.kodomogeijutsu.go.jp/video/theader/i100.html</p> | |
| | <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p> | <p>ID:</p> | |
| | | <p>PW:</p> | |

| | |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団たんぽぽ】

| | | | | |
|-----------------|--|-----------|-----------|---|
| 対象 | 小学生(低学年) | ○ | 小学生(中学年) | ○ |
| | 小学生(高学年) | ○ | 中学生 | ○ |
| 企画名 | 舞台劇「いのちのまつり」～ヌチヌグスージ～ つながるいのち 大切な人 | | | |
| 企画のねらい | 原作は、道徳の教科書にも取り上げられているため、舞台化を通して、児童生徒の興味関心をひきながら、鑑賞体験に導いていくことを目標としています。ワークショップと組み合わせることで、より、個人の体験として、命のつながりや大切さを考えるきっかけとなるのがねらい。また、児童生徒たちに、大切な人を思い描いてもらった絵を、巡回公演参加校全部と共有するため、広い視野を持って、自分は一人ではないということを感じてもらいたいと思います。そして、「みんな生まれてきてくれてありがとう！」ということを伝えたい。 | | | |
| 演目概要・演目選択理由 | <p>【演目概要】</p> <p>《あらすじ》 主人公の和輝(かずき)は、もうすぐ11歳。誰も自分の気持ちをわかってくれないと、親にも友達にも、毎日イライラ。そんな和輝からは、友達も離れていき、それにもイライラ。 友達との関係を取り戻したくて、誕生日にみんなが持っているゲームが欲しいとお願いした和輝。しかし、お父さんが買ってきたのは、ゲームではなく…。イライラが最高潮に達した和輝は、ついに家を飛び出した。 「あー、ムカつく！お父さんもお母さんも、クラスの奴らも、みんなが俺をイライラさせる。みんな大っ嫌いだ！」 そんな和輝の前に、突然現れたのは、会ったことのない沖縄にいるはずのおじいちゃんだった。 親から子へ、そして孫へ、伝えなかった言葉とは、伝えなかった想いとは？</p> <p>《見どころ》 オープニングから観客を惹きつけます。 ランドセルや傘、手袋などの小道具のみを使った役者たちのマイムで、まるでそこに存在しているかのように子どもの姿が浮かび上がって見えてきます。そこから本編へと誘い、物語は、うまく「ごめんね」や「ありがとう」が言えない子ども同士の関係性、親とのやりとりが、あるあると思わせる展開になっています。 また、エンディングで、沖縄の伝統芸能であるエイサー太鼓演奏からカチャーシーを踊る場面は、「自分たちは、つながってきた命を大切に今を生きているよ」と、命に対する祝祭の意味が込められた力強い舞いの場面で、一番の見どころです。 そして、最後に舞台上から、観客児童へ、「生まれてきてくれてありがとう！ばんざーい！」との声掛けで終わります。</p> <p>この作品は、「厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財」の推薦作品であり、原作は、道徳の教科書にも採用されている注目のお話です。</p> <p>【演目選択理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原作は、道徳の教科書にも採用され、「いのち」について子どもたちと考える題材として相応しい内容です。 ・自分の命も、周りの命も奇跡のつながりであり、誰もが、「生まれてきてくれてありがとう」と祝福される、大切な存在であるということとを、この作品を通して改めて伝えたいと思っています。 ・歌や踊り、パントマイム、エイサー太鼓演奏、人形表現など、芸術的要素が盛り込まれた演出で、子どもたちの想像力や発想力を大いに刺激し、舞台芸術として大変見ごたえのある作品にもなっているため選択いたしました。 ・幼児から大人まで幅広い年代に好評な作品であり、通常の劇団上演期間を超えたロングラン上演作品として実績を重ねていることも選択理由です。 | | | |
| 児童・生徒の参加又は体験の形態 | <p>①劇中歌と一緒に歌って、カチャーシーを踊ってみよう！ 本番のエンディングで、テーマソング「いのちのまつり」の歌を歌いながら、カチャーシーで踊る場面に参加してもらいます。手拍子や学校で用意できる打楽器(カスタネット)なども使い、全校生徒と出演者が一体となって命の祝祭の場面を盛り上げます。</p> <p>②大切な人たちの絵でつながる！ ワークショップ時に描いてもらった大切な人の絵を公演当日、観客席を取り囲むように掲示した中で、観劇します。可能な限り参加学校全ての絵を展示します。児童生徒が描いた絵も舞台美術の一部となります。</p> <p>③学校側の希望により、舞台設営や片付の様子を見学できるようにします。また、終演後、バックステージツアー(舞台裏見学)で小道具や楽器に触れる機会をつくったり、質問コーナーや記念撮影等で、役者たちとの交流を図ります。</p> | | | |
| 児童・生徒の参加可能人数 | 本公演 | 参加・体験人数目安 | 500名くらいまで | |
| | | 鑑賞人数目安 | 500名くらいまで | |

| | | | | | | |
|--|--|------------------|---|------------|-------------------|---------------|
| <p>本公演演目</p> <p>原作/作曲</p> <p>脚本</p> <p>演出/振付</p> | <p>本公演演目『いのちのまつり』</p> <p>原作/草場一壽「いのちのまつり～ヌチヌグスージ～」(サンマーク出版)</p> <p>脚本/久野由美・松下哲子 監修/ふじたあさや</p> <p>演出/大谷賢治郎 人形演出/つげくわえ</p> <p>音楽/遠山裕 美術/池田ともゆき 衣装/坂本真彩</p> <p>振付/酒井麻也子 照明/坂本義美 音響/山北史郎 制作/上保節子</p> <p style="text-align: right;">公演時間 60 分</p> | | | | | |
| <p>出演者</p> | <p>根津均/宮田恵紀子/森谷聖/中嶋溪文/山下詩奈/岸野莉子 (予定)</p> | | | | | |
| <p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴</p> <p>※3名程度</p> <p>※3行程度/名</p> | <p>大谷賢治郎(演出)・・・サンフランシスコ州立大学芸術学部演劇科を卒業。児童劇から人形劇、古典から現代劇まで、様々な形態の舞台芸術を演出する。桐朋学園芸術短期大学特任准教授、東京藝術大学非常勤講師を務める。</p> <p>久野由美(芸術監督)・・・1987年劇団たんぼぼ入団後、役者として数々の舞台に立つ。50周年記念公演「龍の子太郎」では、主役の太郎役で全国縦断公演。2002年より上演脚本も多数執筆。本企画の「いのちのまつり」の脚本も手掛ける。2008年全国児童青少年演劇協議会奨励賞受賞。</p> <p>根津均(メインキャスト)・・・1977年入団以来、舞台に立ち続け、出演公演回数は、2,000公演を超える。</p> | | | | | |
| <p>本公演</p> <p>従事予定者数</p> <p>(1公演あたり)</p> <p>※ドライバー等</p> <p>訪問する業者人数含む</p> | <p>出演者: 6 名</p> <p>スタッフ: 3 名</p> <hr/> <p>合計: 9 名</p> | <p>運搬</p> | <p>積載量: 4 t</p> <p>車長: 7 m</p> <p>台数: 1 台</p> | | | |
| <p>本公演</p> <p>会場設営の所要時間</p> <p>(タイムスケジュール)</p> <p>の目安</p> | <p>前日仕込み</p> | <p>無</p> | <p>前日仕込み所要時間</p> | | <p>時間程度</p> | |
| | <p>到着</p> | <p>仕込み</p> | <p>上演</p> | <p>内休憩</p> | <p>撤去</p> | <p>退出</p> |
| | <p>8時</p> | <p>8時～11時</p> | <p>13時～14時</p> | <p>0分</p> | <p>14時～16時30分</p> | <p>16時30分</p> |
| <p>※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。</p> | | | | | | |
| <p>本公演</p> <p>実施可能日数目安</p> <p>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p> | <p>6月</p> | <p>7月</p> | <p>8月</p> | <p>9月</p> | | |
| | <p>10月</p> | <p>11月</p> | <p>12月</p> | <p>1月</p> | | |
| | | <p>15日</p> | <p>10日</p> | <p>15日</p> | | |
| | <p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p> | | | <p>計</p> | <p>40日</p> | |



(図1) (図2) 体育館フロアに舞台を設置して行います。体育館ステージは、使用しません。体育館が狭い場合は、体育館の横方向に設置する場合や、前後逆に設置し、体育館ステージも客席として使用する場合があります。舞台設置に必要な面積（間口12～14M×奥行11M）



(図3～図6) 「いのちのまつり」上演の様子
 身体表現や人形表現など、様々な表現手法を使った舞台です。実際にエイサー太鼓を叩きながら、エイサーを踊る場面もあります。誰もが命がつながって生まれてきた奇跡の存在であり、どんなにうまくいかない毎日でも、ひとりじゃない！すべてのいのちがつながって関わり合って生きている！

公演に係るビジュアルイメージ
 (舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

| | | | | |
|----------------|---------------------|-------------------------|----------|-------------|
| 著作権、上演権利等の許諾状況 | 各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否 | 該当あり | 該当コンテンツ名 | 原作・各種プラン |
| | 該当事項がある場合 | 権利者名 草場一壽事務所・各種プランナー | 許諾確認状況 | 使用(上演)許諾取付済 |

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

| | |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

【公演団体名 劇団たんぽぽ】

| | | | |
|--|---|--------|--------------------|
| ワークショップのねらい | <p>本番に参加するために、劇中歌やカチャーシーを練習することで、公演に対する興味や期待を高めま す。また、この舞台と一緒に作り上げる意識を持たせることができます。大切な人、大切なものの絵を描く ワークショップでは、自分が、何を大事にして、誰を大切に思っているのか、そしてどんな人たちに囲まれて 生きているのか、改めて考えるきっかけになります。 それを、クラスメイトと共有することで、コミュニケーションが生まれることを期待します。また、どちらのワー クショップも物語の内容と結びついて、より公演を身近に感じてもらうねらいがあります。</p> | | |
| 児童・生徒の参加可能人数 | ワークショップ | 参加人数目安 | ～500名(学年を限定する場合あり) |
| ワークショップ実施形態及び内容 | <p>本公演の1ヵ月ほど前に、3名でワークショップに伺います。時間は、2時限を想定しており、1時限目は、全 校生徒対象に、2時限目は、学年を限定して行う予定ですが、学校側との話し合いにより、参加人数やワー クショップ内容は、臨機応変に対応して参ります。</p> <p>【事前準備】 劇中音楽CDを各学校に配布します。給食の時間等を利用して、歌を周知していただきます。</p> <p>【ワークショップ当日】</p> <p>①劇中歌を一緒に歌って、カチャーシーを踊ってみよう！（1時限、全校生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、最初に活動内容を伝え、上演作品について内容や作品ができるまでを説明します。 ・体をほぐしながら、大きな声が出るよう、シアターゲームなどで表現を楽しむ時間を作ります。 ・エンディングソング「いのちのまつり」の歌を練習します。 ・カチャーシー（手踊り）の練習をし、歌に振りをつけていきます。 ・手の動きを付けたり、カスタネットを鳴らしたり、指笛を吹いたり、自由に踊ったり、動いたりしながら、歌っ てみます。 <p>（上手に歌うことやうまく踊ることが目的ではなく、このシーンに込められた意味や、感謝の思いを伝えること を重視し、手拍子だけでの参加もできるようにします。）</p> <p>このシーンは、おじいちゃんのお葬式の後、家族や親せきが集まっているというシーンですが、「自分の 中には、ご先祖さまから受け継いできた命がつまっている。今、生きている自分たちが笑顔で元気にしてい ることが、一番おじいちゃんやご先祖様たちが喜ぶことなんだよ」と伝えるために祝祭をあげるシーンです。 出演者と児童生徒と一緒にアイコンタクトなどでコミュニケーションをとりながら、元気に生きている喜 びを表現しあいます。</p> <p>②大切な人、大切に思っているものの絵を描いてみよう！（1時限、1学年程度）</p> <p>画用紙やクレヨンなどの画材は、用意いたします。 長い歴史の中、たくさんの命がつながって生まれてきたみんなは、誰もが大切な存在であることを伝えな がら、自分の大切な人や自分の大切に思っているもの、好きな人やものを思い浮かべて、絵を描いてもら います。 大切な人やもののイメージを表現した絵でもよく、何を描いたか、コミュニケーションをとりながら、進めて いきます。 これまで、ほとんどの児童が、時間内に書き終えることができています。</p> | | |
|  | | | |



その他ワークショップに関する特記事項等

ワークショップは、基本的に体育館で行います。
内容や時間については、学校側とも話し合い、学校が抱える課題や要望等も取り入れながら柔軟に対応していきます。

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

| | |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

本事業への応募理由

【公演団体名

劇団たんぽぽ

】

①本事業に対する取り組み姿勢

本事業を実施することで、団体としても普段は、鑑賞のみでの関わりの持たない児童生徒とワークショップという体験を通して、生の子どもたちの姿に触れることができるのは、公演を行う上での大きな財産となると考えています。学校の先生方と力を合わせて、今を生きる子どもたちと真摯に向き合って、この事業に取り組んでまいります。

当法人は、本事業の前身である「本物の舞台芸術体験事業」や「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」「文化芸術による子供育成総合事業」から現在の事業に至るまで、ほぼ例年採択され、巡回公演を実施してきました。

その中で、時代は移り変わっていても、子どもたちの表現したい姿は、変わってはいないのではないかと感じています。それは、ワークショップや共演参加を通して、子どもたちが実に生き生きと表現を楽しみ、実施学校の先生方も、普段見えない子どもたちの姿に驚くほどであるからです。

当団体の作品づくりにおいては、常に、子どもたちと一緒に何を考えたいかをテーマに演目を決め、ワークショップでは、どのようにして、子どもたちの心を解放し、お芝居の世界(演劇)に興味を持ってもらえるかを考えて、活動をしています。それは、創立以来78年間で培ってきたノウハウや理念に裏付けされているものと自負しております。

しかし、そこに甘んじることなく、今を生きる子どもたちと真剣に向き合い、各学校の特色や実態に沿って、先生方との話し合いを十分に取しながら、本事業に取り組んでいきたいと考えております。

そして、この事業を通して、普段芸術文化に触れる機会の少ない子どもたちや、鑑賞のみの体験しか経験したことのない子どもたちへ、もっと身近に芸術文化に触れ、学校の授業だけでは経験できない、表現を楽しみ親しむ機会を広げていきたいと考えています。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

電話による事前打ち合わせ後、内容をまとめた文書を送付いたします。ワークショップや本公演前には、必ず、最終確認の連絡をいたします。

年度替わりで担当者が変わった場合、事業について把握されていない学校も多く、事前打合せは、特に入念に行いたいと考えております。事業実施にあたって、当団体では、学校側や先生方に、負担がかからないよう、意思疎通を図りながら、進めていきます。

また、初めて事業を実施される学校には、事業の趣旨や、これまでの事業実施の様子、それによる子どもたちの変化なども丁寧に伝えていきたいと思っております。

そして、ワークショップ及び、本公演実施前の再確認等、学校側との連絡を適宜、取り合い、ワークショップでの訪問時には、現場を見ながら、公演当日の打ち合わせをいたします。

ワークショップ指導に当たっては、共演ワークショップや表現指導の経験者が行きます。そのため、これまで本事業を実施した経験や学びを生かし、実施校の特色に合わせ、臨機応変に対応できる体制で行うことができます。ワークショップで体験したことが自然と本公演の内容へとつながり、授業ともリンクしていく流れになっています。

また、提出演目である「いのちのまつり」は、共演やそれに付随するワークショップで実績を重ねており、どのような状況であっても、この事業を効果的かつ円滑に実施できると考えております。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫